

第10回 災害対策本部のシミュレーション演習

富士山噴火への備えと対処・復旧演習

平成27年2月6日（金）／産業貿易センタービル 720会議室 防災問題研究会

昨年まで、大規模地震への備えとして行ってきた災害対策本部のシミュレーション演習を、今年は富士山噴火への備えとして実施した。

演習は大規模地震への備えでこれまで指導頂いてきた(一財)危機管理教育&演習センターの細坪理事長にお願いし、富士山噴火による出来事の洗い出し、これを噴火の影響によるものみに選別、噴火による企業(ビジネス)の影響想定、対処法の立案、事前の備え抽出、とステップで進められた。

噴火による影響は、降灰に伴うもの为中心であり、降灰想定マップを基に、灰による具体的な不都合事象を想定し、神奈川県内で操業する企業として何を考え何をすべきかを、業種の違う同士でグループ化した参加者で考えを出し合い、自社だけでは考えつかない課題を広い視野から抽出した。

このような作業を通じ、灰による影響は現代社会においては、甚大な影響を生じる事が認識された。

こうしたブレインストーミングの後、仮想の企業を設定し、参加者各自が社長の立場として状況判断するシミュレーション演習を行った。

演習は、必要であれば操業停止も判断する事とし、操業停止によるダメージ拡大の回避ケース、一方で早計な操業停止判断のケースがあり、操業停止前にやっておく事、頑張るべきでない事、また、降灰地域以外は通常操業であることを理解し、自社操業停止時の影響、代替工場の要否等、次善の手段を検討する際の考慮事項も認識された。

